

滋賀県森林センターだより

2009年度

〈第28号〉

試験研究情報

◆平成21年度林業試験研究課題の概要

森林センターが今年度実施する林業試験研究課題の概要は次のとおりです。

区分	研究課題名	概要	担当
国補	(造林) 高性能林業機械を活用した低コスト作業システムの確立 (H20～H21)	間伐促進のために、平成18年度に本県で初めて高性能林業機械が導入された。今後、伐採現場における機械の稼働状況を調査し、本県の地形条件等にマッチした機械の組み合わせや現場作業の効率化、低コスト化を検討のうえ、高性能林業機械を活用した低コスト作業システムをまとめる。	吉川
	(造林)新規 列状間伐等の伐採跡地における植生の推移に関する調査 (H21～H22)	近年、高性能林業機械を活用した列状間伐の普及が進められている。しかし、列状間伐は相当程度の伐採幅があることから、その普及を図るためにその後の植生回復状況を把握し、今後の森林・林業施策の基礎資料として活用する。	西村
受託	(機能保全) 森林吸収源計測事業 (H15～H22)	森林の炭素吸収量算出に必要な森林関連データについて、国際的に認知されるレベルでの効率的かつ確実性の高い収集方法を開発し、これに沿って森林の炭素吸収量を計測する。	小島
	(機能保全)新規 里山再生に向けた特用林産物生産技術の検討 (H21～H23)	県内の里山の多くを占めるマツ林やナラ林では、松くい虫やナラ枯れによる森林の荒廃が進み、森林の多面的機能の低下が危惧されている。このため、各種整備が進められているが、残されたマツ林やナラ林そのものの健全化を図る必要があり、これまで獲得してきた特用林産物の生産技術をより進め活用する方法を検討することにより里山の再生を図る。	太田
単県	(育種) ウツクシマツ遺伝子保存に関する研究 (H18～H23)	湖南省に自生する天然記念物のウツクシマツが、松くい虫被害により減少してきているため、遺伝形態の解明に取り組んできたが、12年度で見通しがついたことから、引き続き松くい虫抵抗性ウツクシマツを作出する。	太田
新税対応	(機能保全) 琵琶湖の水源を守る森林づくりの検討 (H21～H24)	琵琶湖流域の森林が、琵琶湖に対しどのような水源かん養機能を有しているか科学的根拠に基づき、定量的に明らかにしてきた。その中で、新たに懸案となった「地質（花崗岩、古生層）に対応した人工林整備手法の検討」および「琵琶湖流域森林の栄養塩供給に対する定量的評価」を行うことにより、いろいろな森林施業を想定したより精密なシミュレーションを実施し、琵琶湖の水環境の面から森林施業を科学的に評価する。	小島
	(造林) 環境林植生経年調査 (H18～H21)	人工林を強度間伐により針広混交林へ誘導するために行われる環境林整備は、本県では新しい取り組みである。このため、強度間伐実施後の育林木や侵入植生などの生態系の動態調査を実施し、望ましい環境林整備を提言する。	吉川

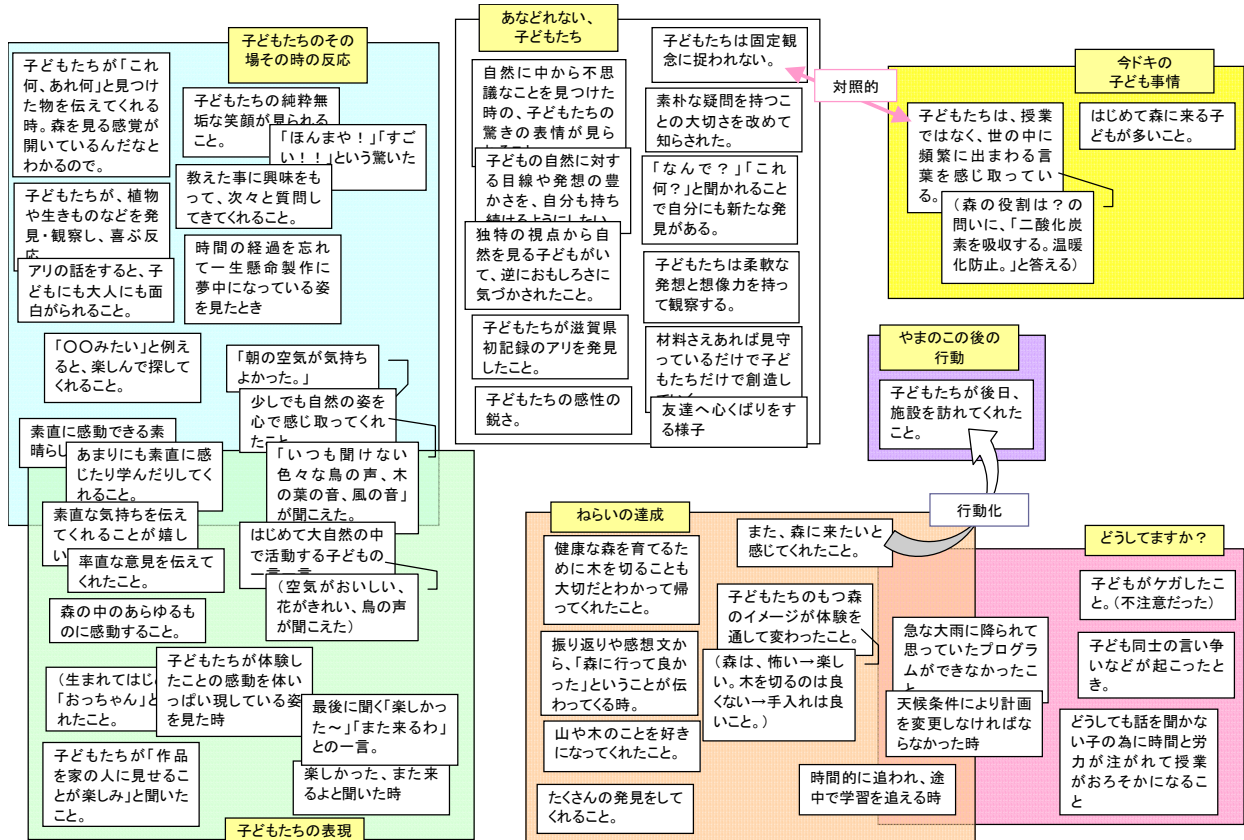
普及情報

◆森林環境学習「やまのこ」事業について聞きました（2）～最前線のやまのこ施設から～

知っているようで知らない「やまのこ」事業について、よりよく知ってもらおうと、前号から3回シリーズでお届けしています。今回は、その第二回目。「やまのこ」事業を実施している施設で、実際に子どもたちと接している専任指導員の方々の、現場での想い、生の声を紹介したいと思います。

そこで、専任指導員の皆さんが普段どんなことを考え、どんな想いをお持ちなのか、現状と展望についてお伺いしました。本来ならお一人ずつインタビューしたいところでしたが、各施設合わせると、20人近くになりますので、設問二つのアンケートの形式を取りました。一つの設問に対して、一文（箇条書き）で複数の反応・意見をいただき、似たもの同士を分類してキーワードで括り（グループ化）、近いものは近いところに置いて地図化しました。（グループ化・地図化については、担当で進めました。ご了承ください。）

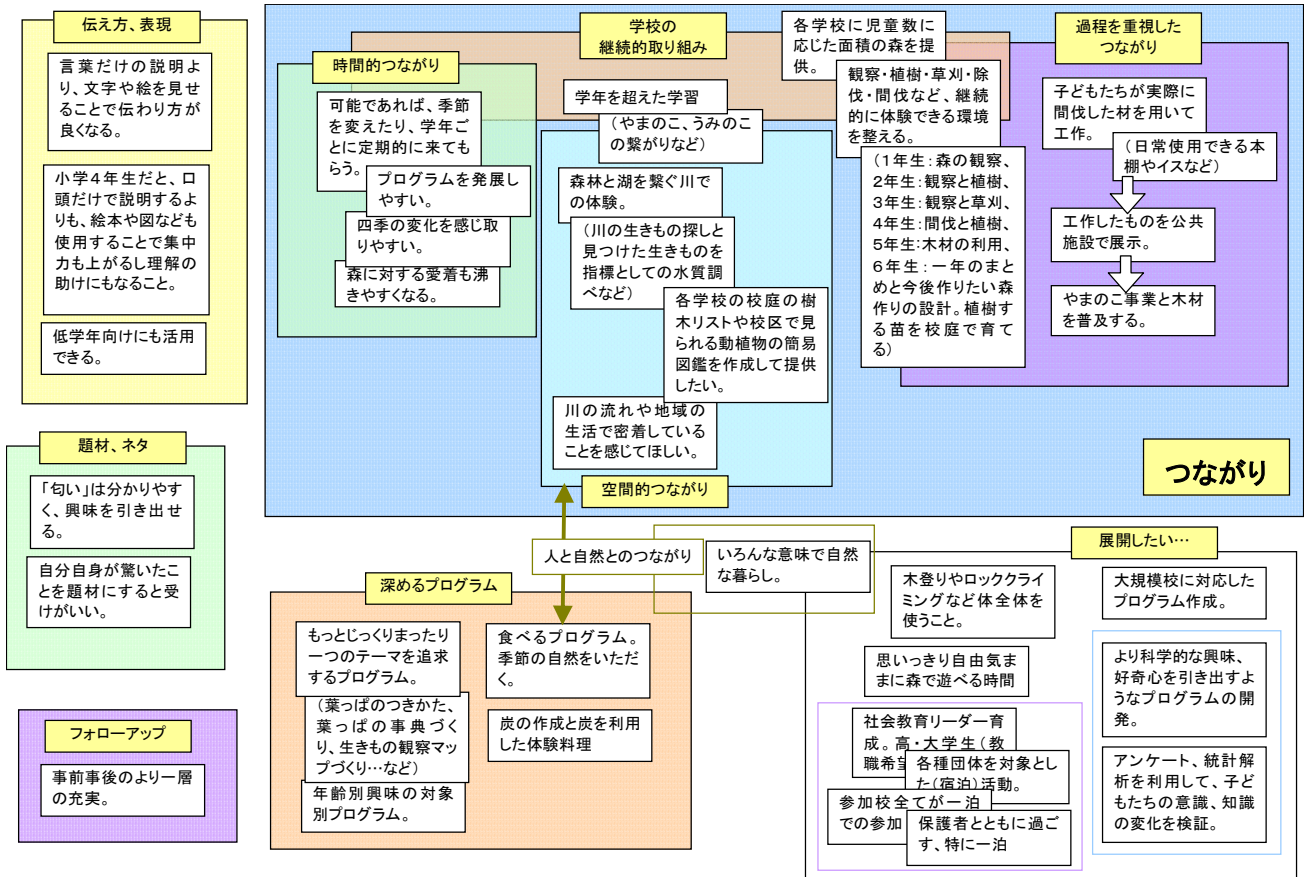
「設問1：子どもたちと接して、うれしかったこと、残念だったこと、彼らから学んだことは、～」



※付随する文章については線で結び、具体例が記されていたものについては括弧書きにしています。

設問1からは、専任指導員さんが現在感じていること、思っていることを読み取ることができます。また、設問2では将来的にはこうしたいという展望をお聞きしています。やまのこ施設は、実は「やまのこ」事業だけ、小学校4年生だけを対象にしているわけではありません。あくまで、小学校4年生の「やまのこ」はその「入口」にすぎないのです。人と森とがよりよい関係性を続けていくためにどのように考え行動したらいいかを考えるきっかけを県民に提供する場所がやまのこ施設であり、そのお手伝いをしてくれるのが専任指導員さんなのです。その彼らの展望に共感できる方、協力いただける方は、ぜひ一度お近くのやまのこ施設を訪れてみてください。（西村）

「設問2:将来的にこんなことしたい提供したいことは、～」



各種お知らせ1

◆森づくり県民講座受講生募集

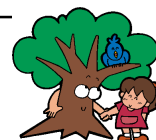
森林は、水源のかん養や地球温暖化防止など多面的な機能を持ち、私たちのかけがえのない財産です。これらの森林は、多くの方々の協働により守り育てていくことが重要になっています。このため、滋賀県では「琵琶湖森林づくり条例」を施行し、県民の方々の参画による「県民協働による森林づくり」を推進しています。

森林センターでは今回、森とふれあい森の楽しみを見つける体験を通じて、森づくり活動のリーダーを養成をするため次の講座を開講します。

<中級編>

森づくり活動を始められた方を対象に、樹木や林業機械の知識・技術を習得していただくことを目的とします。募集人数:30人程度

	内容
9月13日 (日曜日)	○講義・実習 林業機械(チェーンソー・刈払機)の安全な使い方
9月27日 (日曜日)	○講義・実習 野生キノコの採集と同定
11月8日 (日曜日)	○講義・実習 ・里山の樹木の見分け方と利用方法 ・簡易な炭焼



<上級編>

森づくり活動をされている経験者を対象により高度な知識や技術を身につけていただき、森づくりリーダーとして相応しい人材を育成することを目的とします。
募集人数: 30人程度

	内 容
7月26日 (日曜日)	○講演: 森林総合研究所関西支所 「里山に入る前に考えること」 ○講義 森づくりに関する県の理念、補助制度 ○実習 森林センター貸出機器について



※申込み・お問い合わせは、森林センター・和田まで。
講座開催5日前まで申し込みを受け付けています。各講座とも定員になり次第募集を締め切ります。1日だけの受講も可能です。
受講者には事前に受講決定通知を送付します。
(入門編は終了しています。)

各種お知らせ2

◆森林センター研修参加者募集

森林センター林業技術研修 (第1回)

日時: 平成21年(2009年) 7月24日(金) 14:00~16:00

場所: 森林センター大会議室

内容: 「地球温暖化と森林・林業」

講師: (独)森林総合研究所温暖化対応推進室
室長 松本 充朗氏



平成20年度試験研究成果発表会と森林センター林業技術研修 (第2回)

日程: 平成21年(2009年) 9月下旬予定

編集・発行 滋賀県森林センター

〒520-2321 滋賀県野洲市北桜978-95

TEL 077-587-2655 FAX 077-587-6527

ホームページ <http://www.pref.shiga.jp/d/shinrin-c/>

Eメール dj36@pref.shiga.lg.jp (担当: 西村) 2009年7月発行